

母いわさきちひろ 松本猛さんが語る

黒姫で生誕100年記念講演

上水内郡信濃町の黒姫童話館は19日、黒姫高原にアトリエ兼山荘を構えた絵本画家いわさきちひろ(1918〜74年)の生誕100年を記念する講演会を同館で開いた。ちひろの長男で安曇野ちひろ美術館(北安曇郡松川村)常任顧問の松本猛さん(67)と安曇野市に、ちひろの生い立ちや作品について約50人を前に語った。

松本さんは、人物の顔や手の輪郭線を入れずに描くちひろの作風を説明。形をはっきり描かないことで見る側の想像力をかきたたせ、手の柔らかさなどを表現したとし、「(見る側に)イメージさせるため、ちひろは一本の線を引く訓練をものすごくやった」と述べた。

ちひろが戦時中、旧満州(中国東北部)に渡り、帰国後も東京で空襲を経験していることを紹介。赤ちゃんと、赤ち

やんを抱く母親の手だけが描かれた作品などを例に、「(作品の背景に)命の大切さや愛情などがある。戦争という悲惨な経験をして命とは何かを考え、生まれた絵」と強調する。松本さんは4月から信濃毎日新聞朝刊文化面で「花と子どもの画家・いわさきちひろ生誕100年」を連載している。



母いわさきちひろについて語る
松本さん(奥) 19日、信濃町